

【支援策の一例】 様々な健康・医療分野のベンチャーを積極的に支援

再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業



加齢黄斑変性の治療を目指した同種iPS細胞由来網膜色素上皮細胞の研究開発



自己軟骨細胞シートのための統合的評価手法の開発



膝関節における外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎



角膜上皮幹細胞疲弊症、自家培養口腔粘膜シート

研究開発型スタートアップ支援事業



免疫細胞の人工的機能転換技術の開発



モバイル睡眠改善システムの社会実装と関連事業の事業化



高機能細胞を活用した新規治療法の試験・分析技術等の開発

戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）



幹細胞を簡便、安全に分取し、高機能化増幅する革新的器具の開発



核酸医薬送達を高精度化する細胞内バリア突破型ナノ粒子の開発



バイオ医薬品の経皮吸収を可能にする粘着テープ化技術の開発



網羅的遺伝子解析技術を利用した細胞治療用間葉系幹細胞集積・採取技術および再生誘導医薬評価系の開発

(※) 例示として示したのみであり、健康・医療分野のベンチャーが対象となる事業を全て網羅しているわけではない点に留意。

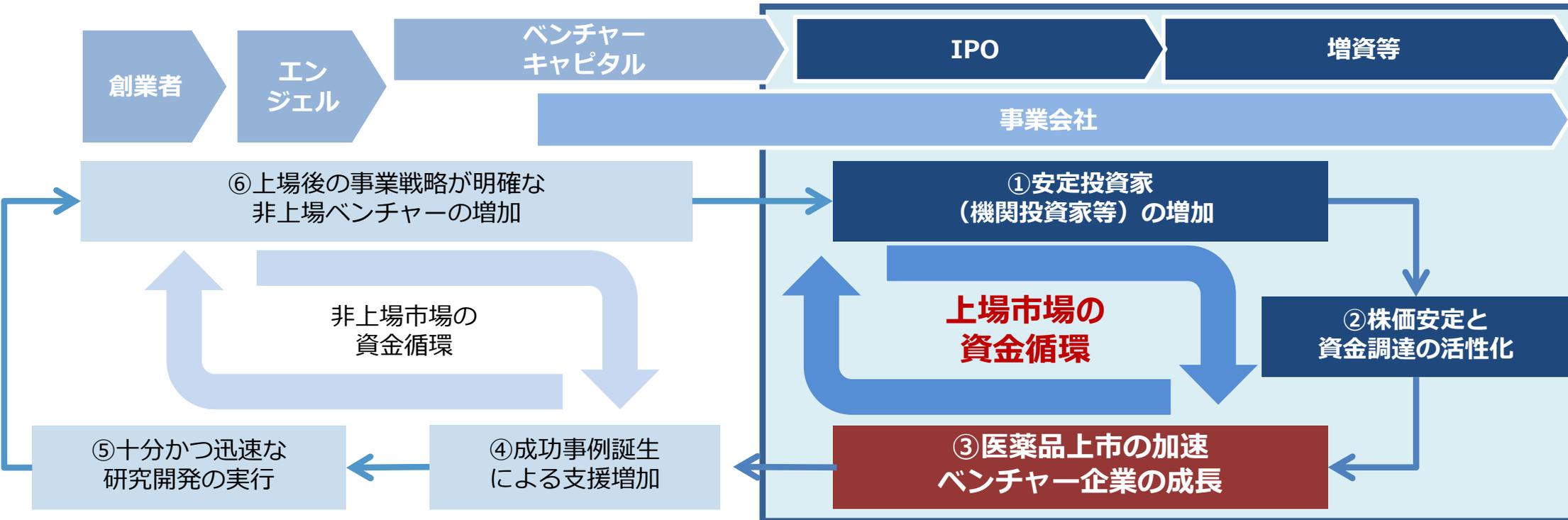
(※※) 各企業の事業概要は、各事業の採択課題名から抜粋。

(資料) 経済産業省HP等

【今後の方向性】バイオベンチャーの上場後の資金調達環境を活性化し医薬品上市の加速化を目指す

- 現在、新たに上市される医薬品の**70%超**はバイオベンチャーが生み出す状況。今後、「特定の患者群に対する画期的な医薬品開発」が加速する中で、日本で事業を営む国内外のバイオベンチャーによる医薬品の上市を加速する事業環境整備はますます重要に。
- 米国では**機関投資家**による支援等を通じて、NASDAQに上場する創薬系バイオ企業の時価総額が**100兆円**超に成長。
- 一方で、日本では**個人投資家**の支援が中心。マザーズやJASDAQに上場するバイオ企業の時価総額は**1兆円**程度（※1）に過ぎない。
- 日本の上場市場におけるバイオ企業の評価のあり方についての検討を実施し、**機関投資家とバイオベンチャーの対話を促進**する。

医薬品上市を加速するためのバイオベンチャーの成長サイクル



（参考）米国の成功バイオベンチャー（米NASDAQ時価総額Top10）ですら、上場後の黒字化（※2）に平均**10年**を要しているが、その間も1社平均**400億円**を株式市場から調達、着実に成長。**上場後の安定的かつ機動的な資金調達が医薬品上市を支える。**

（※1）Factsetデータベースでは日本企業は14社：時価総額の合計は0.9兆円、日本の創薬特化型バイオベンチャー27社の合計は1.1兆円。

（※2）契約一時金等で単年度のみ黒字化する場合があるため2年連続の黒字と定義

（出所）Factsetデータ・証券会社提供資料等より作成。株価と時価総額は2017年9月20日時点。